

平成31年2月8日

保護者のみなさま

山添村立山添中学校

平成30年度「学校アンケート」集計結果と分析について

1 はじめに

12月に実施しました「学校アンケート」（生徒用「学習と生活アンケート」、保護者用「学校評価アンケート」）の結果をまとめましたので報告いたします。ご協力ありがとうございました。

集計の結果は、裏面の表をご覧ください。それぞれの項目ごとに、左から、「Aあてはまる」「Bどちらかと言えばあてはまる」「Cあまりあてはまらない」「Dあてはまらない」の順になっています。また、表の右欄には、肯定的回答（ここでは、「Aあてはまる」と「Bどちらかと言えばあてはまる」）の合計及び割合(%)を表示しています。

全般的に高い評価を頂いていますが、結果を分析するにあたり肯定的回答の割合が70%以下なら「評価が低い」と見なして課題を整理し今後、改善に向けての取組を進めていきたいと思いません。なお文中()内の%は昨年度の結果です。

2 アンケート結果より

- (1) 「学校に行くことが楽しい」について、生徒は84%(79)・保護者は83%(89)の方から肯定的な回答を頂きましたが、昨年度同様約2割の生徒が、学校に行くことがあまり楽しくないと思っていることについては、授業改善や教育相談活動を通じて、楽しい授業を創造するとともに生徒理解を進めていかなければならないと考えています。ただ、子どもたちは「学校行事に意欲的に参加している」、「生徒会活動や委員会活動に積極的に取り組んでいる」が共に90%程度あり、学校生活での取組に関しては充実感を持っているので、今後も一人ひとりの子どもたちの活躍の場を大切にしていきます。また「部活動に積極的に参加している」と答えた1, 2年生は89%であり、部活動が学校生活の充実のための重要な役割を果たしていると考えます。
- (2) 「悩みや相談事など、聞いてくれる先生がいる」と答えている生徒は、一昨年度47%から昨年度74%、今年度80%へと増えています。また「学校は、子どもの悩みや相談事などに適切に関わってくれている」と答えている保護者の方も77%(68%)と増加しており、「先生と話そうタイム」等の相談活動や日頃の生徒との関わりの中で、子どもとの信頼関係を基礎として、心に寄り添うきめ細やかな教育を地道に行ってきた成果だと思えます。
- (3) 「目標を持って学校生活を送っている」について、81%(73)の生徒と77%(74)保護者の方から肯定的な回答を頂きました。86%(84)の生徒が「学校では将来の進路や生き方について考える機会がある」と回答し、83%(68)の保護者の方は「学校は、子どもの進路に関する情報提供に努めている」と昨年度より高い評価です。社会が大きく変化する今日、子どもたちが夢と目標を持って生きていけるよう、3年間を見通したキャリア教育や進路指導をより一層充実させるとともに情報提供に努めていきたいと思えます。
- (4) 「わかりやすい授業」について、77%(86)の生徒と62%(72)の保護者が肯定的な評価をしています。他の項目に比べると低い評価となっています。また、「授業中、進んで発表する」生徒は昨年同様47%と低い評価なので、タブレット等情報機器を積極的に活用しながら「より主体的な学び」の視点から、生徒にとって受け身の授業ではなく、興味を持って楽しい授業となるための改善を行い、「学びを発信・交流し合える生徒の育成」を目指していきます。
「シラバス等を利用して、計画的に学習するように意識している」「シラバスや学ナビなど、子どもが意欲的・計画的に学習できるよう工夫をしている」については、生徒45%(45)・保護者68%(57)と、共に低い評価となっています。シラバスや学ナビを見やすいように改良すると共に、普段から復習や予習に活用し計画的に学習を進めるよう、教師から生徒へ発信していくことが必要と考えます。

- (5) 「全校スピーチなど様々な発表の機会を通して、人前で話す力がついてきた」については、生徒69%(66%)・保護者75%(75%)と昨年同様あまり高い評価ではありません。人前で発表する活動は、表現力やコミュニケーション力の向上に効果があると考えていますが、まだまだ意見を言ったり発表する機会は少ないので、小規模校の利点を生かしてさらに交流や発表の場面を増やすことが大切と考えます。
- (6) 「家庭学習をよくする」については、生徒59%(65%)・保護者49%(62%)と、他の項目と比べかなり低い評価となっています。3年生になると受験を控え家庭学習の習慣は身に付いてくるようですが(1年50%(61%)、2年48%(53%)、3年84%(88%))、1、2年生においては改善が必要です。計画的な宿題の設定や点検、インターネットを利用したeライブラリーの活用など、入学後の早い時期から学習習慣を確立させていくよう意識付けをしてことが重要だと考えています。また、「本をよく読んでいる」「子どもは、家庭でもよく本を読んでいる」と答えた生徒は58%(56%)、保護者は34%(37%)と低い評価となっています。生徒自らが読解力の大切さを認識し、読書の習慣が身に付くよう、学校においては啓発活動や読書環境の整備等を行うとともに、学習や読書の時間を確保するために、「ノーゲーム・ノースマホデー」を設定するなど、テレビやスマホ、ゲーム等の時間の使い方について学校と家庭が連携・協力して時間の管理ができるよう指導していくことが必要と考えます。
- (7) 「だれに対してもよくあいさつをする」については、生徒95%(79%)・保護者92%(83%)が肯定的にとらえています。挨拶はコミュニケーションの基本であり、「本校の生徒はよく挨拶ができる」と来校者や地域の方々からは良い評価が聞かれます。よき伝統は受け継いでいくよう引き続き指導を行っていきます。
- (8) 「国際理解教育・国際交流は、今後とも推進していくべきである」については、保護者の方からは92%(89%)の肯定的な回答を頂いています。関心を持ち積極的に取り組んでいると答えた生徒は80%(60%)と昨年度より改善は見られましたが、より生徒の意欲や関心をより高めるための工夫が必要と思います。ALT(外国語指導助手)の協力によるイングリッシュクラブや、学校支援ボランティアの皆様による奈良教育大学留学生の招致や同学年の外国生徒の訪問による交流等を行うとともに、英語検定試験の実施やスピーチ大会への参加も継続していきます。
- (9) 「地域ボランティアによる学校支援活動」の推進については、94%(94%)の保護者の方から理解をいただいています。PTA組織と協働した学校諸行事を、学校支援組織とも協力して進めてきたことが高い評価につながっていると捉えています。ただ、「校内や地域のボランティア活動に進んで参加している」と答えた生徒は50%(37%)と低い評価となっています。子どもたちは部活動や習い事等であまり時間の余裕がないという現状もありますが、地域からの支援を受けるだけでなく、中学校と地域が連携しながら、生徒自らが地域で活動できる機会を設けたり活動の場を紹介していく必要があると考えています。
- (10) 「地域の文化や伝統的な行事に参加協力している」と答えた生徒は80%(69%)、保護者は81%(74%)と昨年度より高い評価となっています。総合的な学習の時間を利用して地域についての学習を深め、故郷への誇りを持てるようにすることが、地域の伝統行事への参加や地域文化の継承に繋がっていくものと考え、授業の中でも工夫し取り組んでいきたいと考えています。

3 おわりに

お寄せいただいたご意見を参考にして課題を整理し、次年度に向けて教育の営みを進めたいと思います。今年度の9月より「部活動休養日」の設定をしていますが、92%の保護者の方から適当であるとの回答を頂いています。また「授業参観や懇談会の時期や回数は適当である」が91(87%)、「各種広報(学年通信、PTA広報、ホームページ等)により、学校や子どもたちの活動の様子が伝えられている」が96%(94%)と、学校での子ども達の様子を知っていただくことについても高い評価を頂いています。これまで同様、各種行事にご参加いただき気軽に中学校の様子をご覧いただき、忌憚のないご意見をいただきたいと思います。